



おおみや トピックス



市HP内掲載記事へ

年齢	R3.2末(前月比)
0歳～14歳	1,308人 (-3)
15歳～64歳	5,777人 (+20)
65歳～	3,034人 (-14)
合計	10,119人 (+3)

大宮町の人口

口大野地区防災計画書 地域の防災力向上へ

3月19日に開催された「令和2年度第1回京丹後市防災会議」において、「口大野地区防災計画書」が、京丹後市地域防災計画として承認されました。市内では7地区目、大宮町内においては奥大野区に次ぐ2地区目の承認です。

当区では、平成30年度より龍谷大学政策学部と域学連携事業として、「口大野防災プロジェクト※1」を実施してきました。取り組みを重ねる中で、区民から「地域の防災力をさらに高めよう」という意見があり、「口大野区防災会議」の新たな設立と、同地区における防災計画策定に向けて取り組みを進めてこられました。

同会議の会長として作成に携わった口大野

区西村区長は「今年度は日本大震災から10年という節目の年であり、皆さんが災害に関心を持つ時期だと思うので、このタイミングで計画が出来てよかったです。この計画に基づき有事の際の対応や、日頃の防災訓練を実施することにより、安心安全で災害に強い地域づくりを推進していきたい」と話していました。

この防災計画書は、簡易版が区内に全戸配布されるほか、同区が開設しているホームページにて掲載される予定です

※口大野防災プロジェクトとは、同大学との連携事業で、防災活動を通して地域活性化を目的としたもの。

口大野区HPはコチラ



令和3年

京丹後市成人式

3月21日、令和3年「京丹後市成人式」が行われました。大宮町からは101名(男性46名、女性55名)の新成人が出席されました。

※○内は出身地区を表しています。



齊藤由貴さん (口大野)

小牧よし乃さん (口大野)

井浪千尋さん (森本)

安積恒平さん (三坂)

吉田玲未さん (河辺)

松下前市民局長よりご挨拶

3月末で大宮市民局を異動することになりました。在任期間中は区長さん方をはじめ、地域の方には色々大変お世話になりました。持続可能な地域づくりに重点をおき活動をしてきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、地域内での十分な話し合いができませんでした。しかしながら、今後も人口は減少傾向にあり、持続可能な地域を考える中では、住民間の話し合いや支えあいが必要だと考えますので、今後とも大宮市民局の事業にご協力をお願いします。

大宮市民局からの お知らせ

新体制(人事異動)

- 大宮市民局長 川口 悟史
- 地域振興係長 岡崎 尚子
- 【地域振興係】
- 主任 吉田 茂喜
- 主任 西 智宏
- 主任 谷口 あゆみ
- 主任 平岡 隆大
- 主任 木村 ゆかり
- 主任 樋口 美奈子
- 主任 石原 舞衣
- 主任 村上 幹生
- 地域づくり支援員 寺田 唯
- 会計年度任用職員 民谷 京子

「Life is 口大野」発行

平成30年度より口大野区で活動している龍谷大学政策学部石原ゼミナールの学生が、令和2年度の成果として、同区での暮らしをまとめた冊子「Life is 口大野」を作成しました。

この冊子には、区民（出身者含む）6名へのインタビューや地区の行事等が掲載されています。今回作成に参加した学生は「インタビューを通じて区民の皆さんの地元に対する強い思いを知ることができ、とても貴重な経験ができました。この冊子を通じて口大野区の皆さんに地元の良さを再発見してほしい。」と話していました。



「Life is 口大野」

マイナンバーカード出張申請

@ 奥大野公民館

3月17日、奥大野公民館を会場に、マイナンバーカードの出張申請が実施され、14名の方が参加されました。これは、京丹後市市民課の職員が、市内の事業所や地域の公民館などへ訪問し、マイナンバーカード申請の受付をするもので、今回奥大野区が市へ出張申請を依頼し、実施されたものです。出張申請の申し込み方法など、詳しくは市民課（69-0210）へお問い合わせください。



書類作成も職員が手伝います（上）
申請に必要な写真撮影も実施（下）

つねよし百貨店

ひがしだ かずま
東田 一馬 さん

大阪府出身。「田舎で働き隊！※」で大宮町上常吉で任務をしたことをきっかけに移住。「チャレンジ！つねよし百貨店実行委員会」のメンバーとして、つねよし百貨店の運営を担う。

※現在の地域おこし協力隊

日本一小さな百貨店

●「日本一小さな百貨店」とは？

平成24年8月19日、15年続いた『常吉村営百貨店』は閉店しました。その1ヶ月後、「新しいつねよし百貨店を考える会」が開催されました。その会には地域住民を問わず老若男女46名が出席し、意見交流が行われたほかに、SNSなどを通じて新たな百貨店への意見募集を行いました。そして同年11月1日、常吉村営百貨店の理念を継承した『チャレンジつねよし百貨店実行委員会』により、新たな地域の拠点「つねよし百貨店」として開店しました。それこそが「日本一小さな百貨店」です。

●今後、つねよし百貨店をどうしていきたいですか？

人口減少は止められませんし、後継者を作ろう、探そうとは思っていません。楽しい場所、空間を維持することが私の役目だと思っています。特に何色にしたいか、とか、どんな形にしたいかといったことは考えておらず、その時に「良い」と思ったものを、「面白い」と思ったものを取り入れていきたいと思っています。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

●「チャレンジつねよし百貨店実行委員会」とは？
常吉村営百貨店が閉店することを受け、当時、地域住民はショックを隠し切れない様子でした。少しでもショックを緩和してほしいが、常吉村営百貨店をそのまま継ぐことはできず、「模索中」という思いをこめて、「チャレンジつねよし」という名前をつけ

